|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **会場名** | | **サブリーダー**  **役職　　　　　　　　　氏名** | |
| 大阪国際会議場 | | 地区職業奉仕委員会 | 近藤　太郎 |
|  |  |  |  |
| **リーダー　役職・氏名** | |  |  |
| パストガバナー | 松本進也 |  |  |
|  |  |  |  |
| **議事録作成者** | 委員　辻本　純一 | | |

|  |
| --- |
| 開会：（15時30分） |
| 発表者：パストガバナー・リーダー　松本　進也 |
| 【記録内容】開会挨拶ならびにロータリーの基本理念について  ・ロータリーとは奉仕する人を育てる団体である  ・「職業奉仕」はロータリー固有の考え方であり誇りである  ・日本と世界の職業奉仕に対する解釈に少し相違があるが、それを理解した上で我々の従前からの解釈も認める柔軟性が求められている  ・会員減少の対策のあらたな取り組みとして、世界をゾーン分けする「ゾーン8モデル」と「RIBI モデル」の 2 つを 6年間パイロットとして試験実施が開始された  ・利他・超我の精神に基づき、職業奉仕にあたり、自分と自分の事業のレベルアップを図り、ロータリアンとして、この精神を実践してゆかなければならない  ・2024-25年度テーマ「ロータリーのマジック」にあるように、クラブで多様性、公平さ、インクルージョン（DEI）の原則を取り入れ、好ましい変化をもたらすことが大切  ・皆様お一人お一人がこの職業奉仕と言う金看板を背負って、職業奉仕の名の元、確固たる理念の  基に有意義な活動を推し進めて頂きたい  ・本日の有意義な内容をクラブに持ち帰って卓話などで広め、全員に理解を深めるようにして頂きたい |
| 発表者：委員長・サブリーダー　近藤　太郎　　　　　　　　　　　　　　　　　（15時42分） |
| 【記録内容】次年度活動方針・活動計画  ・委員紹介（総勢16名）  ・毎月第三水曜日ガバナー事務所にて委員会を開催  ・2024‐25活動方針発表  　職業奉仕の理念の基本的な考え方は、職業における高い倫理性と職業における社会への貢献意識である。RIの方針や表現は少しずつ変化しているが、この基本的な考え方は変わらない。  クラブ会員の皆様に、職業奉仕の理念を深く理解して頂き、意義ある奉仕を実践してもらうための支援を行う  ・クラブ委員長への支援としての2024‐25活動計画発表  ①クラブ委員長会議（2024年10月5日）  地区委員会による職業奉仕についてのプレゼン  他クラブの奉仕の実践例紹介  グループディスカッションによる情報交換会  ②クラブ委員長卓話実施のための講習会（2024年12月予定）  10月のクラブ委員長会議のプレゼンを卓話モデルとして、クラブ委員長が卓話を実施してもらいやすいように解説する。希望者の参加。地区からの出張卓話は行わない。  ③ローターアクターとの懇談会（2025年2月予定）  　　　　クラブ委員長に直接関係はなく、参加する必要は無いが、地区の取り組みとして紹介  　　　　職業奉仕の理念の観点から若い世代にロータリーの魅力を伝え、若い世代のロータリーに対する考えを聞く |
| 発表者：　　副委員長　荒金　正之　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（14時56分） |
| 【記録内容】2023-2024年度　クラブ委員長鍵実施報告  ・次年度の活動内容をイメージしやすいように、本年度の活動実施報告を写真付きで報告。  ・2023年8月5日　大阪福祉勤労会館で実施された  ・委員長会議は地区職業奉仕委員会と、第2660地区内の各クラブの職業奉仕委員会が方向性を合わせ協力しながら職業奉仕の理念と実践の方向性を共有したいと考えて実施した  ・ロータリークラブ創設以来大切にされて来た職業奉仕についての考え方を中心に卓話モデルとして発表、その模様の紹介  ・奉仕の実践例紹介の模様  ・グループディスカッションによる情報交換会の様子を紹介  ・おおむね好評であったが、会場が狭く、周りの声が大きく会話ができなったとの反省から次年度は広い会場に変更  ・地区職業奉仕委員会はこれからも「実践する職業奉仕」を表現していく |
| 発表者：委員　谷口　善紀　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（16時06分） |
| 【内容】2023-2024年度　クラブ委員長卓話実施のための講習会実施報告  ・次年度の活動内容をイメージしやすいように、本年度の活動実施報告を写真付きで報告。  ・2023年10月18日　ガバナー事務所で実施  ・参加者　合計16クラブから17名  ・委員長会議でのプレゼンを卓話モデルとして、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」と「超我の奉仕」を中心に解説した  ・理念が分からないと意味のある奉仕の実践ができない  ・八尾RCでは地域活性化のためのイルミネーションを設置するに当たり、電気工事業のクラブ会員が活躍している、これは職業の手腕を活かした職業奉仕の例と言える  ・職業において高潔であるのは当たり前ではないかとの意見があったが、中古車販売会社やアイドル芸能事務所のような問題が起こっているのは事実である  ・職業奉仕委員会では、今後も全てのロータリアンが高潔であって欲しい、という思いをもって理念の浸透に取り組んで行く |
| 発表者：委員　西村　智子　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（16時15分） |
| 【内容】ロータリアンとローターアクター、米山奨学生による懇親会の実施報告  ・次年度の活動内容をイメージしやすいように、本年度の活動実施報告を写真付きで報告。  ・2024年2月21日　阿波座エル・シエロで開催  ・参加者は米山奨学生6名、ローターアクター6名、米山学友２名、ガバナーやガバナーエレクト、代表幹事等々の地区役員5名、国際・社会奉仕委員会から１名、クラブ奉仕拡大増強委員会から4名、職業奉仕委員会から13名、元ローターアクターで現在はロータリークラブ会員2名、計４６名  ・ラックには、「職業奉仕」と言う奉仕活動がない  ・延原ガバナーのご依頼により、「職業奉仕」の観点から、ロータリーの魅力とロータリアンの職業観を伝え、また若者の目にはロータリーやロータリアンがどう映っているのかを直接聞く機会として開催  ・ライブアンケートで若者からの意見を直接聞いた  ・若者は、奉仕活動に魅力は感じているが、ロータリーに入る事にハードルの高さを感じでいる  ・今回の若者からの感想や意見は、若者にも魅力あるロータリークラブの在り方や今後の方針についてのヒントになるよう、延原ガバナーに報告 |
| 質疑応答者：委員長　近藤　太郎　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（16時25分） |
| 【内容】  質問者：箕面RC 山本会員  Q1．今年まで4年間、地区RAC委員会に所属しており、RACのメンバーの方との交流を図ってきたが、より踏み込んだ交流会を企画できないかと思っている。  ロータリークラブには高い倫理観はもちろん大切ではあるが、一方で様々な業界の先輩が在籍し、情報交換も活発になされており、ビジネス的側面においてもプラスの面があるのも事実である。  そこで、例えば、若手RAC・若手ロータリアンとベテランロータリアンとのビジネスマッチングのような機会や、IM組ごとや業種別の交流会といった、より踏み込んだビジネス寄りの交流会の企画を実施することは難しいか？  A1．そういった機会があってもいいのではないかという意見も実際出ている。  （金銭のやり取り前提ではなく、）自身のビジネスにプラスになる場所としてのロータリークラブというものもあってもいい、という考えを持っている方も多数いらっしゃるので、そういった企画も今後あり得るということを若い方に伝えることは必要だと感じている。  今年すぐにというわけではないが、今後の方向性としては検討していっても良いと考えている。  質問者：大阪天王寺RC 森田会員  Q2．標準ロータリークラブ定款にある「品位ある業務はすべて尊重させるべきである…」の箇所の英語原文はどうなっているのか？（静岡県知事の発言のように捉えられかねないか？）  A2．原文の研究までは至っていない。貴重なご意見として参考にさせていただき、委員長会議までにしっかり勉強の上、報告させていただきたい。  質問者：新大阪RC 村木会員  Q3．「超我の奉仕」というのは、社会奉仕・国際奉仕の標語と理解しており、職業奉仕と「超我の奉仕」とは結びつかないと思うが、どう理解したらよいか？  A3．「超我の奉仕」はロータリー全体の第一標語であり、職業奉仕の考えと合致するものと考えられる（当てはめて考えるとすべてがスッキリと理解できる）。  「超我の奉仕」は、他者第一・自分第二、つまり自分を超えてという理解になる。職業奉仕の考え方も、まず人や世の中に対し奉仕・貢献すること、それによって結果的に自らが報いられる（後に自らの利得となって返ってくる）という考え方であり、超我の奉仕の考えに当てはまる。今後、職業奉仕について説明していく際に、理解しやすくするための一つのポイントとして取り入れていきたい。  質問者：大阪柏原RC 三田会員  Q4．原文の職業奉仕の説明の中で、職業はボケーショナルサービスと記載されていることに違和感を感じている。このことが職業奉仕の理解を難しくしている一つの要因ではないか。なぜオキュペイション、ジョブ、ビジネスなど様々な言葉があるにもかかわらず、なぜボケーションという言葉をあえて使っているのか？昭和の時代から職業奉仕の概念が少しずつ変遷してきている中で、なぜオキュペイションといった別の言葉に置き換えないのか？おそらく宗教的な関係もあるとは思うが、個人的には置き換えた方が理解しやすいと感じているのだが、実際にそういった動きはあるのか。  A4．こういった解釈については、歴史と変遷という観点において非常におもしろいと感じている。例えば、現在は学生たちもロータリアンになれるように職業を持たなければならないという縛りはなくなり、地域のリーダーであれば良いということになった。しかし、具体的内容となるとほぼすべてが未だ「職業」が前提となっている。（この整合性のなさを許容するのもロータリアンである。）このように時代とともに様々な変遷があることからも、言葉の捉え方は大切と思っている。今後につながるよう、しっかり調べておきたい。  質問者：大阪東RC 辰野会員  Q5．当クラブでは若いロータリアンを中心に職業奉仕の考えを深めることを目的としたオフ会（勉強会）があり、そこで先程のボケーショナルという言葉について議論になったことがある。  その勉強会において、確かに宗教的な側面を持っているのは間違いないのではないか、つまり「ボケーショナル」すなわち「天職」＝職業は天から授けられたものと捉えているのではないか？という話になった。  昔は先祖代々の稼業を受け継ぐことが多かったかと思うが、今は転職が当たり前となっており、これだ！と信じた職業を選んでも、状況が変わると別の職業の方がいい、ということは普通にあり得ることである。よって、現代における「ボケーショナル」というのは、「自分がこれだと選んだ職業は天から授けられたものだと考えよう、だからこそ自分の職業に理解を深め高潔性を元に社会に貢献していこう」という意味ではないか。そして、「もしその職業が自分に合っていないと感じた時には、職業を転じてもいいのではないか？その際は次のその職業を天から授かったものだから頑張ろう」と捉えたらいいのではないか、と我々は解釈したのだが、いかがか？  A5．そういった議論をされていることが大事であり素晴らしいと感じている。そうした議論を通じて、職業の大切さや高潔でなければならないという意識付けができると考えている。こういった意見や考え方を委員長会議のグループディスカッション等で共有していただき、そしてそれらを皆様に発信していきたい。 |
| 閉会挨拶：副委員長　武枝　敏之　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（16時45分） |
| 【内容】  職業奉仕は難しい、よくわからないというご意見がやはり多い。  これまでは、理念といった抽象的な話を中心に委員会を行ってきたが、わかりやすい職業奉仕を目指すにはどうすればいいかということを考え、この2～3年進めてきた。  これを踏まえて本日の会議内容を構成したところ、参加者の皆様から非常に活発なご質問、ご意見が出たことを頂くことができ、想定していた以上に有意義な時間を過ごすことができた。  本日頂いたご意見等を参考にさせていただき、今後の活動に反映できるよう委員会を行っていきたい。 |
| 閉会（16時50分） |

**備考・メモ**

|  |
| --- |
| 司会　松本拓郎  マイクリレー　濱中眞希子  議事録　辻本淳一  タイムキーパー　田中商人 |